

## 環境モニター



### 自然調べは楽しいよ パート

6月12日(土)

ワンド周辺水際の観察調査を行いました。梅雨の中休みでやや汗ばむ陽気でしたが、前日までの雨でやや増水した多摩川からワンドに水が流入したのか水が澄んでおり気持ちよく調査はすすみました。

今回はヨシやホテイアオイ・ボタンウキクサといった水辺の植物も多く約70種類を確認しました。頭の上ではオオヨシキリやヒバリの声が元気に聞こえておりました。川面ではコガモならぬカルガモの子どもたちも愛嬌をふりまいましたよ。

今年度は毎月第1土曜日を原則に多摩川河川敷の植物調査を行っていきます。今後はモニター結果を活かしたマップ図鑑を作りたいとの話も出ています。

次回7/3は講師の先生を招き不明な植物名を確認したり標本の作り方を勉強する予定です。興味のある方は是非参加してみてください。

～引き続き環境

モニター募集中です～

問合せ:環境保全課

0424 81-7086



ワンドの  
メリケンカヤツリ

### ガイドウォーク(年2回、春秋実施)

～緑が人の住むスペースへ(21万都市へ)～  
5月29日、梅雨を通り越したような灼熱の中で、2年ぶりに訪ねた『調布駅南口から布田の屋敷林と布田崖線』の様相は・・・

布田4丁目の可愛いネジバナは何処へ?

ひんやりと清涼感を与えてくれていた鬱蒼とした屋敷林の多くは頭をさっぱり刈られ、人々を包み込むゆとりがなくなってきたような気がした。

3丁目のシラカシ・ケヤキの屋敷林は遠めに見ても立派で調布の街もまだまだ捨てたものではないとの参加者の声に同感。

品川道の近くにある牧場には今回も子牛とウサギがおり、いつまでこの場所でモーという声が聞かれるのか心配。



布田崖線をはさんだ6丁目の通称ヘビ山は雑木林の様相を残しており初めての参加者の中から「まるで天然のクーラーのようだ、いつまでも残しておきたい場所」との声があった。(A・S)

お知らせ

今回は10月23日に距離は短めで無理のないコースを予定しております



## 調布の自然 生き物編 その4

小さなエイリアン ラミーカミキリ

5月末、かに山近くの野草園前で、植栽のアメリカフヨウの上に薄い緑と黒のツートンカラーのカミキリムシを見つけた。明治初め頃に中国から輸入されたラミーについて九州にやってきたといわれるラミーカミキリだ。以来少しずつ分布を拡げ、いま関東地方が最前線だという。日本ではムクゲやカラムシを食害している。

ある地域に、「人間の活動に伴って」、他所から(外国とは限らない)やって来た生物を、外来種(英語でエイリアン・スピーシーズ)という。彼らは、昔からその地域に棲んでいる生き物(在来種)の生活を脅かし、その地域の自然環境を攪乱・破壊する原因となる。しかし、彼らが悪いわけではない。原因は人間の「活動」なのだ。このカミキリムシだって、野草園にアメリカフヨウが植えられなければここに来ることもなかっただろう。安易に外来植物を植えたりせず、「野草」園の名に相応しい、在来の植物で見映えを整えるといった配慮を望みたい。(山室)



# 入間・樹林の会

## 雑木林塾自主活動

6月20日、5月に引き続き西側樹林地の笹を刈りました。03年度雑木林塾からの自主参加者を含めた19名の人数のせいか作業面積も一挙に広がり終わったあとの充実感は格別です。ただ、シロダモの低木にアシナガ蜂の巣があり刺された方もいましたので、今後注意が必要です。

日陰で育ったためにヤブランかキチジョウソウかわからない植物やまだ青い実がついたウラシマソウがみつかっています。エゴノキは実がついていました。



ウラシマソウの青い実

<刈った植物> アズマネザサ・シロダモ・アオキ・ヤツデ・シュロ・ドクダミなど

<刈り残した植物> ウラシマソウ・ヤブラン・キチジョウソウ・エノキコナラ・ハエドクソウ・サネカズラミズヒキなど



エゴノキの実

東側樹林地には2ヶ月ご無沙汰している間にチジミザサやアマチャズルなどが生い茂っています。来月の「方形枠調査」が楽しみです。(安部)

午後の話し合い

今年度主なフィールドは「かに山」の予定

若葉町の樹林と比べると、生物層が多様で、活動の幅が広そうなため。また現在、管理を緑と公園課が都から委託されているので草刈りなど簡単な作業をする程度ならば特に届け出る必要がない。なお講座内容によっては、他のフィールドで活動する。

次回は雑木林保全のために必ず身につけておきたい項目を出し合い、今までの講座を参考にプログラム案を考える。

秋にはまた6回講座を開講予定



東側樹林地のようす

## 2004.06 調布の自然学習ボランティア

今年度より、新たに3人の仲間が加わり、自主活動としての『調布の自然学習ボランティア』がスタートしました。活動は、学校サポートが中心です。今のところ、昨年度に引き続き、富士見台小と調和小が対象ですが、今後もう少し増えていきそうです。

富士見台小2年生は、昨年から関わっている学年で、生活科の授業の中で、月に一度、多摩川での遊びをサポートしています。4月には『ヨモギ摘み』、5月、6月は『虫取り、草花遊び』を実施し、7月には『水遊び』を予定しています。校外学習は初めての体験だった1年生の頃に比べて、ちょっぴりお兄さん・お姉さんになりました。私たちの顔や名前を覚えて、親しみを感じてくれている様子は、嬉しいものです。



ヨモギ摘み



包帯法講習  
- 傷口に結び目がこないように -

調和小は、昨年と同じ4年生、つまり、前回受け持った子どもたちの、一つ下の学年です。こちらは、まだ始まったばかりで、新しい先生と、サポートの方向性に関する意見の摺り合わせをしています。

その他、会議のある日は、私たち自身がもっと調布の自然を知るために、午後から多摩川や野川の観察会を行っています。また、救命救急の基礎知識として、包帯法の講習なども行いました。(北谷)



多摩川と学校の往復も慣れてきました

# 水辺の生き物調査実行委員会

▶子どもは親の行動をつぶさに研究して、その行動を見習って成長して行く。お父さん、お母さんのフィールドワークへの参加は子供たちにとって、最高のインタープリター（通訳者）ではないでしょうか？

▶今回私が初めて参加した『第4回野川水辺の生き物調査』（10時～12時）は、台風6号の前日でしたが運良く快晴。しかしここ数週間の雨不足により野川も水量が少なくなっていました。

▶調査に参加されたお母さん達は、まずお母さんが水に入って怖がる子どもを誘い、子どもと一緒に水生物を採り、一緒に調べ、そして子どもたちの「気づき」へと自然な形でファシリテーションができていたのがとても新



鮮で、また驚きとして感じました。子どもと共にキャーキャー楽しんでいる姿はとてもほほえましく、「虫に驚き傍観者になってしまうお母さん」とは違い、自ら網をもって野川に入っていく様子に、ちょっとびっくりしました。こんな素敵なおかあさんたちの活躍に期待してまいります。

▶みんなで協力して捕獲したウシガエルにも最初は「ぎゃー」でしたが、最後は子供と一緒に頭をさすることまでできてしまうなんて・・・自然ってやはりすごいですよね。

▶フィールドワークはともすれば、子どもが主役になりがちですが、この調査では家族が主役という新しい形がそこにはありました。(Y天野)

## ちようふ DE 田んぼ日記 その14

一年で一番忙しくて、たくさんの生物たちに出会えるとき

この一月の間に、みんなで苗を育て、あぜを作り、田んぼを耕し、田植えをしました。一年間の中で一番忙しい時期です。お天気とにらめっこしながら、水の具合を見て、くろつけ（あぜづくり）と田植えを決行しました。

そして6月13日、無事田植えを終わりました。調布には田んぼの神様がいらっしゃるのか、その後1週間以上用水が枯れず、スタッフ一同驚いているところです。その後好天に恵まれ、稲は元気に育っているようです。もうホウネンエビが、たくさんみられますよ。そのほかにもいろいろな生き物たちが育ち始めています。これから夏にかけて、稲を食害する悪い虫も、益虫も、どんどん増えるでしょう（どのような生物がいるのか詳しく知りたい方はご連絡ください）。なによりもうれしかったのは、子供たちの代掻き。田んぼに水を引いて、土をドロドロにしてならず作業です。首まで泥田に漬かって、まるで海辺の砂浴びのように全身泥だらけになって、泥んこ遊びを楽しんでくれました。

今の水量は決して多くありません。佐須用水では半分程度で水が枯れています。野川でも源流を除き、調布市以外では干上がっているところがほとんどだそうです。今後の雨に期待するばかりです。調布の神様、お願いします。

(たんぼの学校 こんどう)



## 第32回「環境フェア」開催されました

6月5日(土)真夏のような日差しの中、調布市主催の「環境フェア」が調布駅南口広場で開催されました。今年は、子どもたちを巻き込んだものにしようと、子どもたちによる「太鼓演奏」や「よさこい踊り」が花をそえました。「ちょうふ環境市民懇談会」は前年にならい「環境モニター」と「雑木林塾」「人間・樹林の会」「調布の自然学習ボランティア」が参加して、活動内容や作品の展示を行いました。アシの葉で作った「アシ笛」、シュロ縄作り、カラスムギの観察、木の葉っぱの観察など体験できるものがあり、来場者に興味を持ってもらいました。

特に、アシ笛は子どもたちに人気があって他のブースに見られない活況を呈し約100名の来場者を数えました。子どもから大人まで展示ブースを訪れた市民の方々に「ちょうふの自然」に関わる活動をアピールすることができました。(辻)



アシ笛 鳴ったかな？

## リレーエッセイ (保全課職員)

今年も6月1～3日の3日間野草園でホタル鑑賞会が行われました。300匹ほどのホタルが姿を見せてくれ、3日間で5,000人以上の人々を楽しませてくれました。私は2日目の日に場内警備のため行ってきたのですが、昨年と比べても今年はホタルの数は多かったと思います。そのことを純粋に嬉しく思う反面、飼育をしなくても調布のあちこちでホタルの姿が見られるようになればよいのになあと思う自分もいました。

ゲンジボタルが生きていくためには、きれいな水の流れがあり、その水辺に土があり、草が生えていて、多くのカワニナが生息するといった条件が必要であると聞きました。そう考えると今の調布にはホタルのすめる環境はほとんどないのかもしれない。私たちにとって、このような環境をつくり、守っていくことが、毎年楽しませてくれるホタルへの、そして自然への恩返しになるんでしょうね。(佐々木)

## イベント情報

### 環境モニター

日時：7月3日(土) 10:00～12:00  
場所：多摩川市民プール南土手のベンチ付近  
内容：講師を招いて植物調査

### 「どんぐり林公園」の整備・保全活動

日時：7月10日(土) 10:00～  
場所：富士見町どんぐり林公園  
内容：落ち葉だめの入れ替え作業など

### 人間・樹林の会

日時：7月11日(日) 9:30～  
場所：人間地域福祉センター  
内容：方形枠調査、管理保全活動など  
持ち物：軍手・筆記用具・作業できる服等

### 【編集後記】

人間樹林地西側の新たなフィールドで笹刈り活動中、3人が足長蜂に刺されてしまった。蜂から見れば安住の地に突然の如く踏み込まれたので、極々当然の行動といえる。改めて、慎重かつ注意深く作業を進めるべく肝に銘じた次第である。(飯田)

### <会議のスケジュール>

日時	場所	活動名/内容
7月1日(木) 18:30～20:30	たづくり3階 302会議室	環境市民懇談会 運営委員会
7月22日(木) 18:30～20:30	たづくり12階 1202会議室	環境市民懇談会 連絡会議
7月24日(土) 10:00～12:00	たづくり12階 1203会議室	雑木林塾打ち合わせ
7月26日(月) 13:30～16:00	市役所3階 環境部会議室	ニュースレター 編集・次号企画

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課  
TEL：0424-81-7086

E-mail：kanky@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会